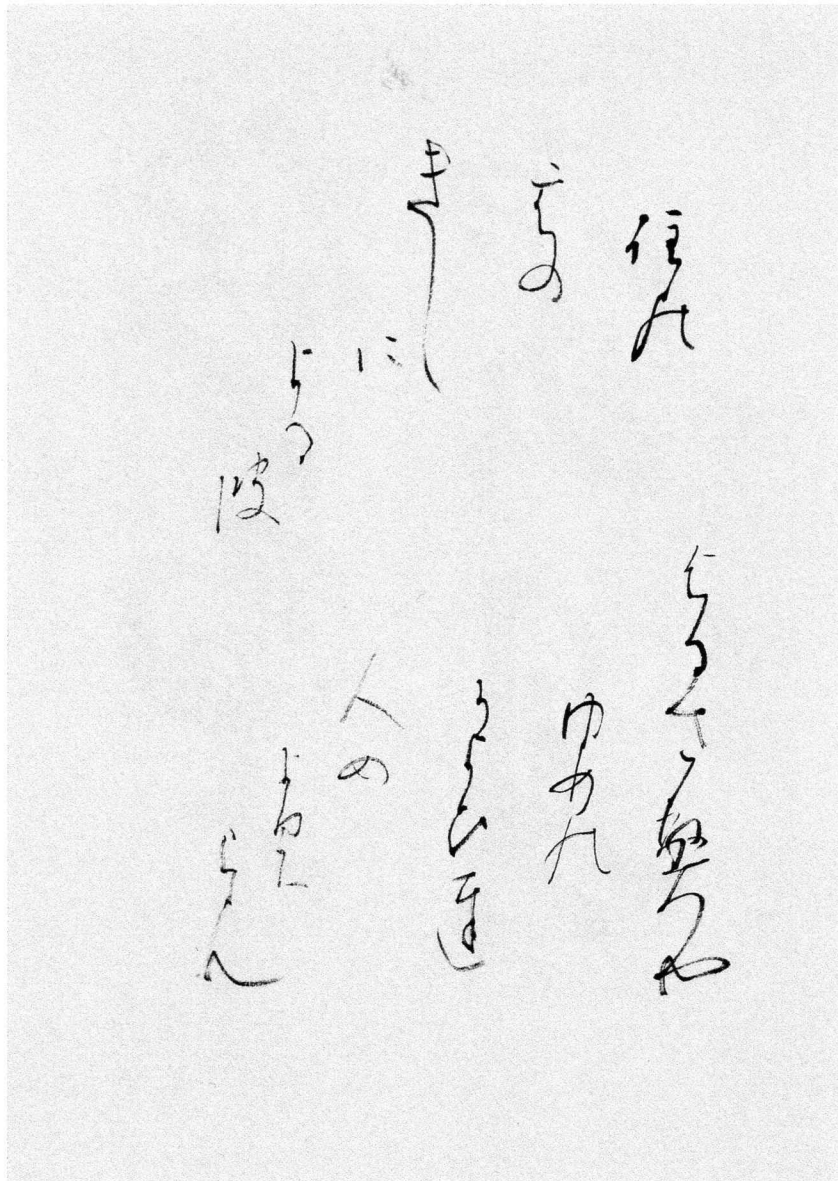


『百人一首』 中村素堂先生の仮名散らし書きの魅力 (七)

住^{すま}の江の岸に寄る波よるさへや 夢の通^{かよ}い路^{ぢひとめ}人目よくらむ

藤原敏行朝臣^{ふじわらとしゆきあそん}



中村素堂先生の書 大島香菊様提供

〈歌意〉

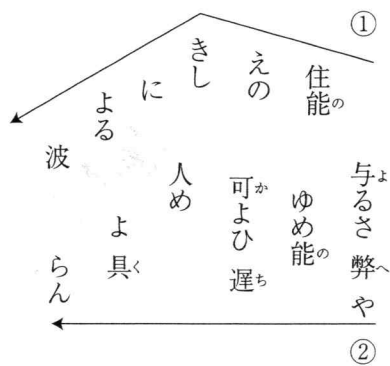
「住吉の海岸に打ち寄せる波の、その「よる」という言葉ではないが、夢であの人に逢うのに私はどうして人目を避けているのだろうか。」この歌は『古今集』(恋二・五五九番)に出ています。

○住の江 摂津国(大阪府) 大社付近の海岸。

(藤原敏行朝臣)

生年未詳〜延喜元(九〇二)年。清和・宇多天皇に仕えた。

〈字母〉



書き出しは上部から下部へ移る2集団構成で書かれています。

(青藍)